

第74回 埼玉県新型コロナウイルス感染症専門家会議 概要

1. 日時：令和5年9月13日（水）17：00～18：30

2. 会場：庁議室

3. 委員（敬称略 五十音順）

岡部 信彦	川崎市健康安全研究所 所長
金井 忠男	埼玉県医師会 会長
川名 明彦	防衛医科大学校 教授
坂木 晴世	国際医療福祉大学大学院 准教授
讃井 将満	自治医科大学 教授
澤登 智子	埼玉県看護協会 会長
竹田 晋浩	かわぐち心臓呼吸器病院 理事長・院長
光武 耕太郎	埼玉医科大学国際医療センター 教授

4. 県側参加者

大野 元裕	知事
日吉 亨	教育長
金子 直史	福祉部長
表 久仁和	保健医療部長
本多 麻夫	保健医療部 参事
岸本 剛	衛生研究所 副所長
山口 隆司	感染症対策課長

5. 主な意見

ア 現状の分析・評価について

- 小児年齢の増加傾向は確かであるが、内科医が多い川崎市のリアルタイムサーベイランスで見ると、小児の割合より大人の割合が多く、特に高齢者は割合が増えてきているので、高齢者に対する注意をしておいた方がいい。（岡部委員）

イ 埼玉県の対応について（10月以降のコロナ入院患者受入れ体制について）

- 県による病床確保がなくなることで、10月以降は重症患者を自院で診ざるを得ない状況が懸念されることから、県による病床確保がなくなることについて、県からしっかりアナウンスすべき。（竹田委員、光武委員）
- 県の対応（10月以降のコロナ入院患者受入れ体制）について、異議なし。（一同）

【県の対応（10月以降のコロナ入院患者受入れ体制）】

- 9月末をもって県による病床確保は一旦終了する。一方、国から10月以降も感染拡大時に限り病床確保を可能とする考えが示されたことから、今後医療機関の意見を聞きながら、感染拡大時の病床確保についての方針を定める。

ウ 埼玉県の対応について（県民への呼びかけについて）

- 高齢者に対しては引き続きワクチン接種を推奨すべき。（岡部委員、川名委員、光武委員）
- 学校活動において、基本的な感染防止対策を継続する必要があるが、若年層は重症化せずに回復していることも多いことから、学級閉鎖等やむを得ないケースを除き、活動全体に制限をかける必要はない。（岡部委員、川名委員）

【県の対応（県民への呼びかけについて）】

- 体調不安や発熱など症状がある場合は外出を控えていただくとともに、基本的な感染防止対策を継続するよう呼びかける。また、9月20日から全年代を対象とした新型コロナワクチンの令和5年秋開始接種が始まることから、特に重症化リスクの高い方への接種推奨を呼び掛けていく。

エ その他（副反応疑い報告の状況について）

- 副反応疑い報告と健康被害救済制度がしばしば混同して語られるが、これらは全く別のメカニズムであることを周知しておく必要がある。あくまで

副反応疑い報告ではワクチン接種との関連性を見出すのが非常に難しいことから、それとは別に健康被害救済制度の申請があれば救済をするという制度である。また、副反応疑い報告で死亡の報告があるが、副反応が原因で死亡者が非常に増えているということではないことをきちんと説明する必要がある。（岡部委員）